

資料

南新保C遺跡現地説明会

調査原因	金沢市南新保土地区画整理事業		
調査期間	令和5年7月～12月（予定）		
調査地	金沢市南新保町地内		
調査面積	南新保C遺跡	2,800㎡	合計11,500㎡
	南新保D遺跡	2,300㎡	
	南新保三枚田遺跡	1,000㎡	
	南新保ゴマチマチ遺跡	5,400㎡	

1. 周辺の遺跡

南新保C遺跡は金沢平野の北部、金沢港までは約2kmの臨海部に位置します。現在は水田や果樹園が広がる田園風景ですが、かつては沼が広がり小川が網目状に流れる低湿地であり、その中の微高地上に南新保C遺跡を含む複数の遺跡が点在していたようです。周辺には南新保A～E遺跡、南新保三枚田遺跡のほか、弥生時代の大集落である西念・南新保遺跡などが分布しています。

2. 過去の調査

南新保C遺跡は平成8・9年度に石川県埋蔵文化財センターが、令和2～4年度に金沢市が発掘調査を行っており、弥生時代中期～古墳時代中期、奈良時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代の遺構と遺物が出土しています。特に令和3年度の調査では、平安時代前期の船着き場または船管理施設の跡と思われる遺構から船材と思われる長大な木材が出土しています。

3. 今年度の南新保遺跡群の発掘調査

南新保C遺跡 【調査中】

弥生時代後期の方形周溝墓1基と平地式建物1棟、奈良～平安時代の水路跡1条、掘立柱建物（時代不明）2棟のほか、複数の土坑、溝、ピットなどが検出されています。

水路跡 湾曲しながら南から北へ流れ、調査区北端で西方向へと屈曲し、令和2・3年度調査区へと続きます。屈曲部は水路幅が広がっており、ここからは後述する墨書土器を含む大量の須恵器・土師器が出土しています。

方形周溝墓 周溝の四隅を掘り残す形状で、周溝から弥生時代後期～終末期の土器が出土しています。過去の調査では周溝の形状・大きさ・方位軸に

複数のパターンが認められ、これが造営時期の差を示している可能性があります。墳丘は既に削平されているため、埋葬施設などは残存していません。

平地式建物 連続する細長い土坑が円弧状に連続する周溝を持ち、そのほぼ中央に1間×1間の柱穴が見られます。周溝からは弥生時代後期～終末期と見られる土器が出土しています。

土坑1 勾玉2点とガラス玉2点が出土しています。平地式建物の内部に位置しますが、建物との関連性は現段階では不明瞭です。

掘立柱建物 方位をほぼ同じくする梁行1間×桁行3間の建物2棟が検出されていますが、出土遺物がほとんど見られないため、時期の特定にはさらなる検討が必要です。

墨描・墨書土器 水路跡の屈曲部から20点弱の墨描・墨書土器を確認しています。中には、一筆書きで螺旋を描くように9個の花弁状の輪を描くもの、内面上半を墨で塗りつぶすものなど、特徴的なものが含まれています。

南新保D遺跡 【調査終了】

弥生時代後期～古墳時代前期の溝2条、掘立柱建物2棟、土坑1基を検出しています。このうち、土坑からは完形の壺1点が底面から出土しており、祭祀に関連する遺構の可能性があります。

南新保三枚田遺跡 【調査予定】

昨年度調査区の南側に隣接する箇所での発掘調査を予定しています。昨年度調査に引き続き、弥生時代後期～古墳時代前期の溝や方形周溝墓などの検出が予想されます。

南新保ゴマヂマチ遺跡 【調査中】

弥生時代後期～古墳時代前期の溝6条や土坑数基を検出していますが、遺構・遺物ともに検出量は多くありません。弥生時代後期～終末期の土器が出土する溝1から刀子形が出土しています。

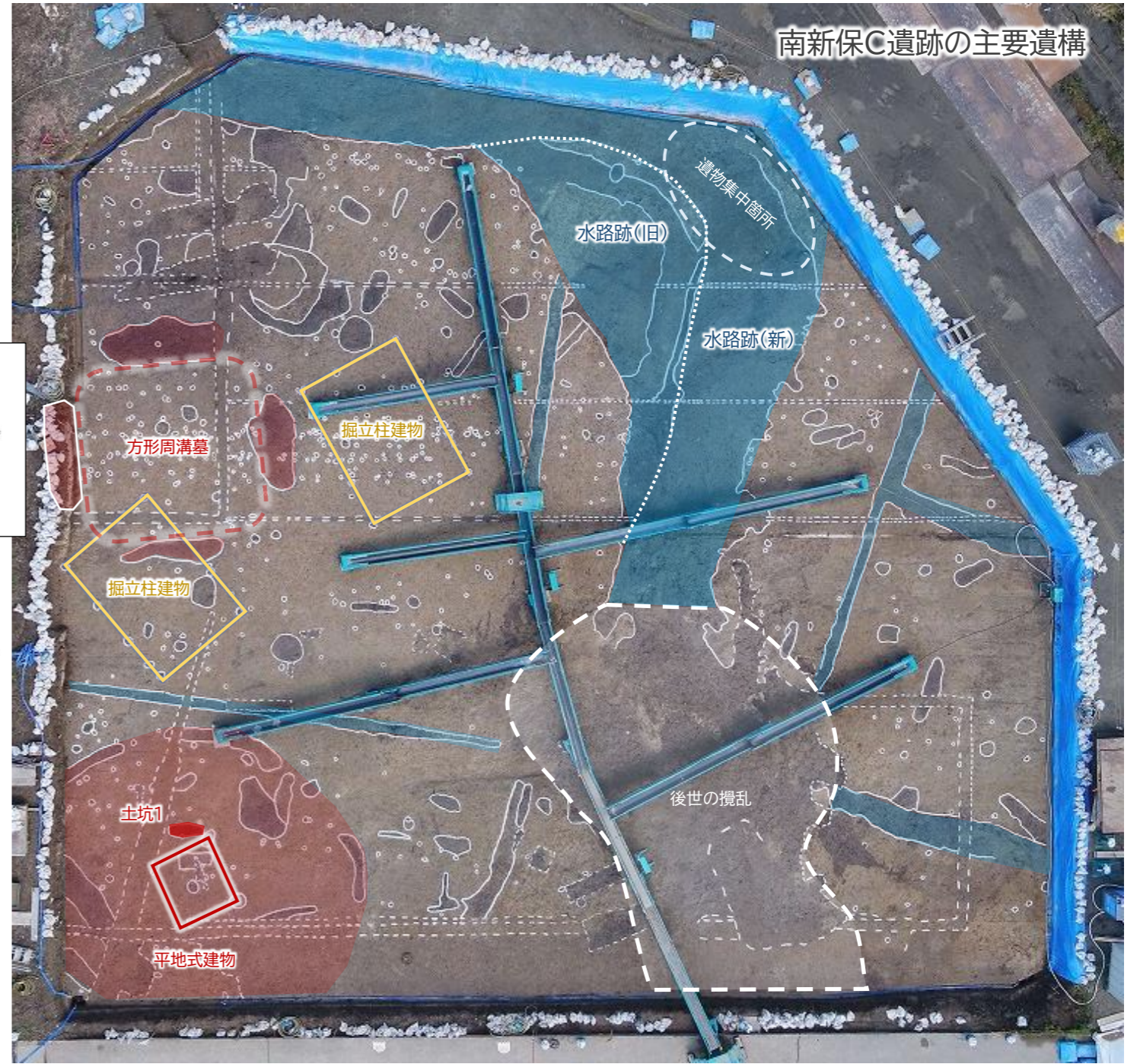
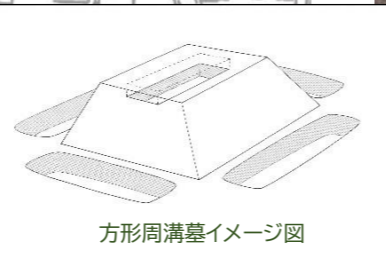
4. まとめ

南新保C遺跡では、弥生時代後期～古墳時代前期の方形周溝墓が確認され、平成8・9年度の調査で確認された墓域が本年度調査区まで広がることが判明しました。奈良・平安時代の水路跡は令和3年度の調査で船材が出土した遺構に繋がるものと考えられるため、屈曲部が船着き場のような施設であった可能性があります。特徴的な墨描・墨書土器の出土も含めて、遺構と遺物の性格や関連性について今後のさらなる検討が必要となります。

南新保遺跡群の発掘調査は現在も進行中です。今後、新たな発見がありましたら、別の機会に報告したいと考えています。

南新保C遺跡発掘調査現地説明会資料 図版(1)

■ 南新保遺跡群の分布範囲と令和5年度発掘調査箇所



南新保C遺跡の主要遺構

■ 弥生時代後期 ~ 古墳時代前期
■ 奈良・平安時代
■ 時期不明

現在、発掘調査継続中のため、遺構検出時の写真を使用しています。



ヒスイ製勾玉 出土状況
出土遺構: 土坑1



墨描土器
出土遺構: 水路跡



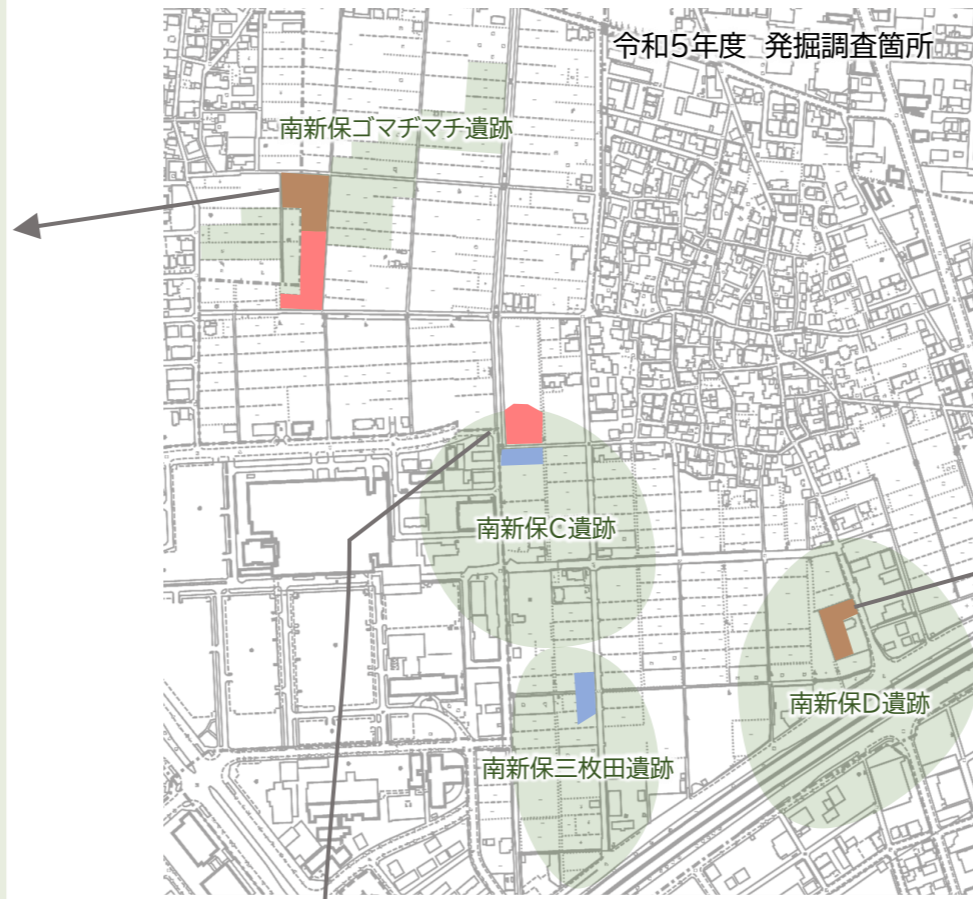
墨書土器「朝」
出土遺構: 水路跡

■ 調査中
■ 調査終了
■ 調査予定

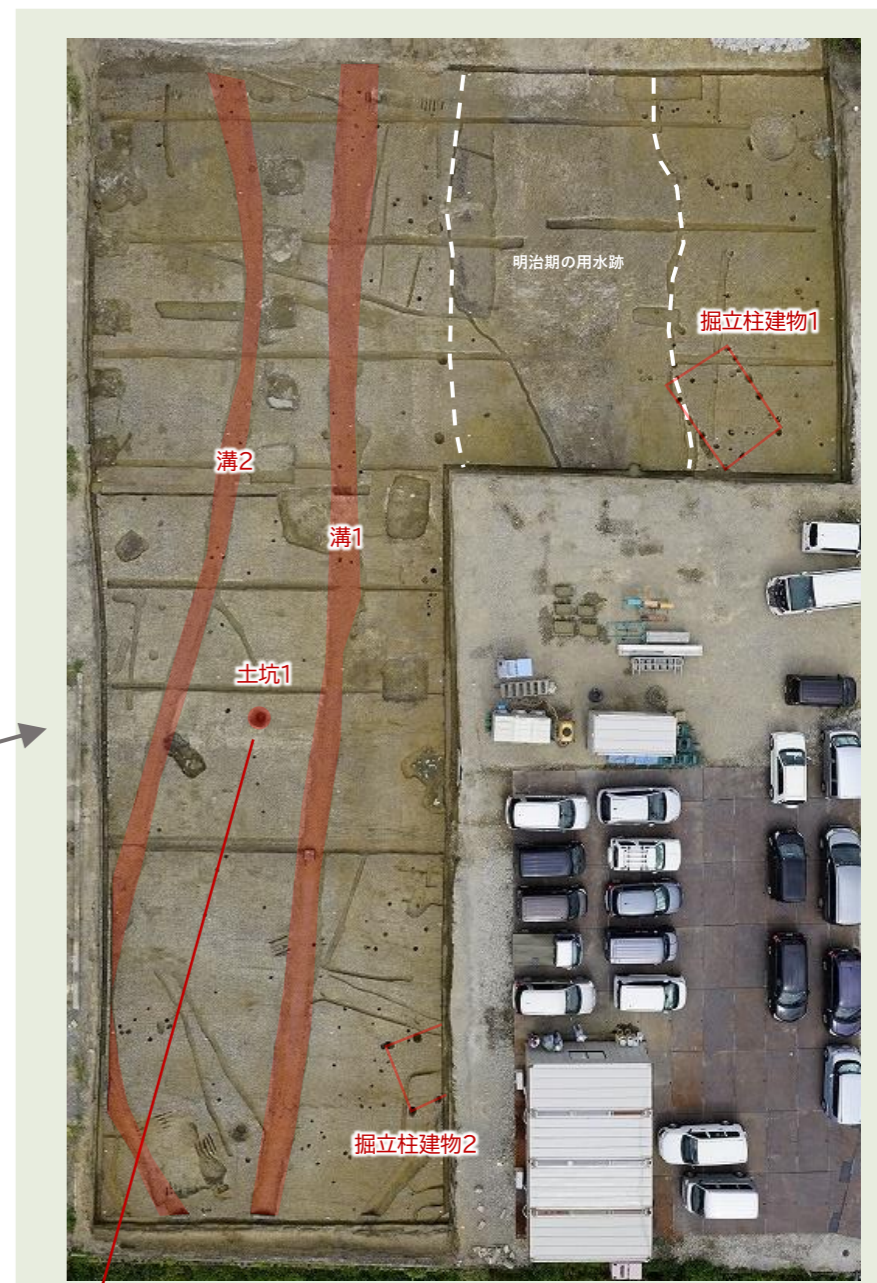
南新保C遺跡発掘調査現地説明会資料 図版(2)



南新保ゴマチマチ遺跡
令和5年度調査区 主な遺構
※遺構はいずれも弥生時代後期～古墳時代前期

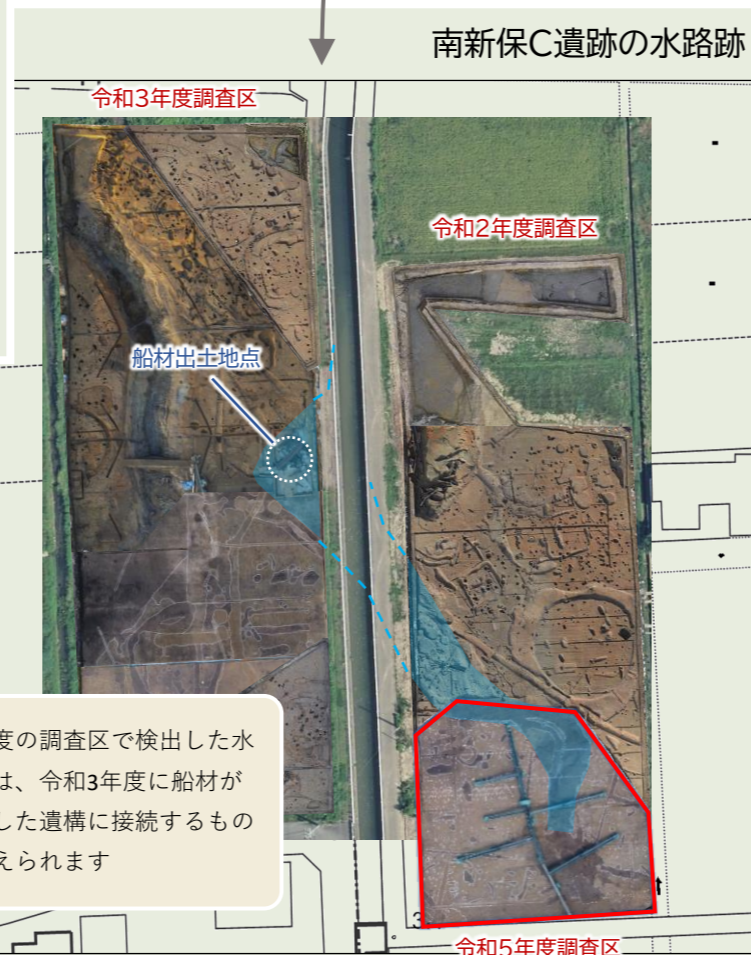


令和5年度 発掘調査箇所



明治期の用水跡

南新保D遺跡
令和5年度調査区 主な遺構
※遺構はいずれも弥生時代後期～古墳時代前期



南新保C遺跡の水路跡

本年度の調査区で検出した水路跡は、令和3年度に船材が出土した遺構に接続するものと考えられます



南新保ゴマチマチ遺跡
溝2 遺物出土状況
弥生時代後期～古墳時代前期の土器が出土しています



土坑1 遺物出土状況
土坑の底部から弥生時代終末期の壺の完形品が出土しました



溝1 遺構掘削状況
溝の底から大量の土器片が出土しました